

新登録答申文化財概要（三重県）

● 旧一志波瀬郵便局 （津市）

【名 称】 旧一志波瀬郵便局（きゅういちしはぜゆうびんきょく） 1棟

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 津市一志町波瀬

【年 代】 昭和6年（1931年）／昭和30年頃・平成29年改修

【建築面積】 84㎡

一志波瀬郵便局は大正11年に創設されました。この建物は、昭和6年に電信電話の本格開始に伴って建てられた建物で、昭和6年から昭和47年まで三等郵便局（昭和16年から特定郵便局）として業務を行っていました。現在の郵便局は、建物の北側100mの場所にあります。この建物では、平成29年から郵便局舎の面影を踏襲したカフェが営まれています。

建物は寄棟（よせむね）屋根の木造平屋建てで、外壁は主にペンキ塗りの下見板（したみいた）張りです。街道に面した玄関は、正面に面格子付きガラス窓と小台が付き、左右にはどちらからも出入りできるよう扉が設けられています。玄関上部の切妻（きりづま）屋根についた棟飾り、破風板（はふいた）や、木製の上げ下げガラス窓が洋風意匠を印象付けています。建物内部には執務室、局長室（応接室）、宿直室、電話交換室などが残っており、地方における郵便局舎建築を知る上で貴重な建物です。

建物の前には、郵便局舎当時の旧型ポストが置かれており、街並みを彩っています。



旧一志波瀬郵便局 外観（東から）



旧一志波瀬郵便局 執務室



旧一志波瀬郵便局 正面（東から）

● 旧山田郵便局電話分室 (伊勢市)

【名称】 旧山田郵便局電話分室 (きゅうやまだゆうびんきょくでんわぶんしつ) 1棟

【種別】 国登録有形文化財 (建造物)

【所在地】 伊勢市本町

【年代】 大正12年 (1923年) / 昭和60年 (1985年) 改修

【建築面積】 546 m²

山田郵便局電話分室は、大正12年に伊勢神宮外宮の北側に建てられました。竣工当時は、同じ敷地内に旧伊勢郵便局舎 (明治42年建設) がありました (国指定重要文化財・現在は愛知県の明治村に移築)。この建物での電話交換業務は大正12年から昭和29年まで行われましたが、電話交換業務の自動交換化に伴って用途が変わり、以後、健康管理所、伊勢市立郷土資料館、伊勢市商工会議所の一部として使われていました。現在は、北側がレストラン、南側がギャラリー・ショップとして使用されています。

建物は平屋建てで、平面形は「コ」の字形をしています。煉瓦造 (れんがづくり) で、外面はモルタル、白セメントを吹きつけており、煉瓦造の郵便局舎としては現存唯一の事例です。赤色の棧瓦 (さんがわら) 葺き屋根に独特な形の破風 (はふ) や窓を配し、白色の壁に縦長の窓を並べています。

近代の建築家である逋信省 (ていしんしょう) 技師・吉田鉄郎 (よしだてつろう) が最初期に手がけた作品で、日本の近代建築を考える上でも重要な建物です。



旧山田郵便局電話分室 西側外観 (西から)



旧山田郵便局電話分室 北側外観 (北から)



旧山田郵便局電話分室 廊下



旧山田郵便局電話分室 ギャラリー

● 熊野古道おもてなし館（旧枳尾家住宅店舗兼主屋） （熊野市）

- 【名 称】 熊野古道おもてなし館（旧枳尾家住宅店舗兼主屋） 1棟
（くまのこどうおもてなしかん（きゅうとちおけじゅうたくてんぼけんしゅおく））
- 【種 別】 国登録有形文化財（建造物）
- 【所 在 地】 熊野市木本町
- 【年 代】 明治時代中期／平成26年（2014年）改修
- 【建築面積】 144 m²

熊野古道おもてなし館（旧枳尾家住宅店舗兼主屋）は、熊野市中心部の熊野街道沿いにあります。元々の所有者である枳尾家は、江戸時代から主に金物を扱う小間物問屋（こまものどんや）を営んでおり、今回登録される建物は明治時代中期に建てられた店舗兼主屋です。平成25年に枳尾家から熊野市へ建物が寄贈されたのちは地域の誘客周遊拠点施設として改修され、平成26年に「熊野古道おもてなし館」としてオープンしました。

建物は、切妻（きりづま）屋根の、つし二階建てで、熊野街道に面して建っています。正面を黒漆喰（くろしゅくい）塗りとして、中央に白漆喰（しろしゅくい）で縁どった虫籠窓（むしこまど）を設けています。内部は何度か改修されていますが、奥の座敷には当初の姿が残っています。

東側にある袖塀（そでべい）とともに、熊野街道の歴史的景観をかたち作っています。



熊野古道おもてなし館 外観（熊野街道側）



熊野古道おもてなし館 和室



熊野古道おもてなし館 内装

● 山中家住宅主屋 ほか3件 (名張市)

【名称】 山中家住宅 主屋・離れ・北蔵・南蔵 計4棟
(やまなかけじゅうたく しゅおく・はなれ・きたぐら・みなみぐら)

【種別】 国登録有形文化財 (建造物)

【所在地】 名張市本町

【年代】 主屋・北蔵・南蔵：江戸時代末期／主屋は昭和59年(1984年)改修
離れ：明治時代前期／明治時代中期改修

【建築面積】 主屋209㎡、離れ49㎡、北蔵31㎡、南蔵23㎡

山中家住宅は名張市中心部にあり、初瀬街道(はせかいどう)沿いの新町通りから本町通りにかかる南東隅に位置しています。元々建物を所有していた角屋源三郎は宿屋を営んでおり、江戸時代末期に建てられた主屋は、近世宿場町の景観を伝える町屋建築(まちやけんちく)です。

主屋は、つし二階建てで、切妻(きりづま)屋根の北棟と入母屋(いりもや)屋根の南棟からなり、北棟正面のつし二階部分には白漆喰(しっくい)が塗り込められています。敷地の奥に建つ離れは、二階座敷の付書院(つけしょいん)や欄間(らんま)の彫刻に趣向を凝らしており、すっきりした良質なつくりとなっています。敷地内には、土蔵造り二階建ての北蔵と南蔵が建ち、伊賀地域の伝統的な建物構成を伝えています。



山中家住宅 主屋 (初瀬街道側) 左：南棟、右：北棟



山中家住宅 北蔵 (東から)



山中家住宅 南蔵 (北から)



山中家住宅 離れ 2階床の間